



領域代表者	東京都立大学・人文科学研究科・教授 兼 子ども・若者貧困研究センター長 阿部 彩（あべ あや）	研究者番号:60415817
研究領域情報	領域番号：22A101 キーワード：貧困学、子どもの貧困データベース、実現可能な政策提言、剥奪指標	研究期間：2022年度～2026年度

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

●研究の全体像

本領域研究は、大規模な子どもの貧困データベースを構築し、データの分析結果を政策提言に利用することで各自治体に還元し、日本における貧困研究を学術領域として発展させることを目的としています。

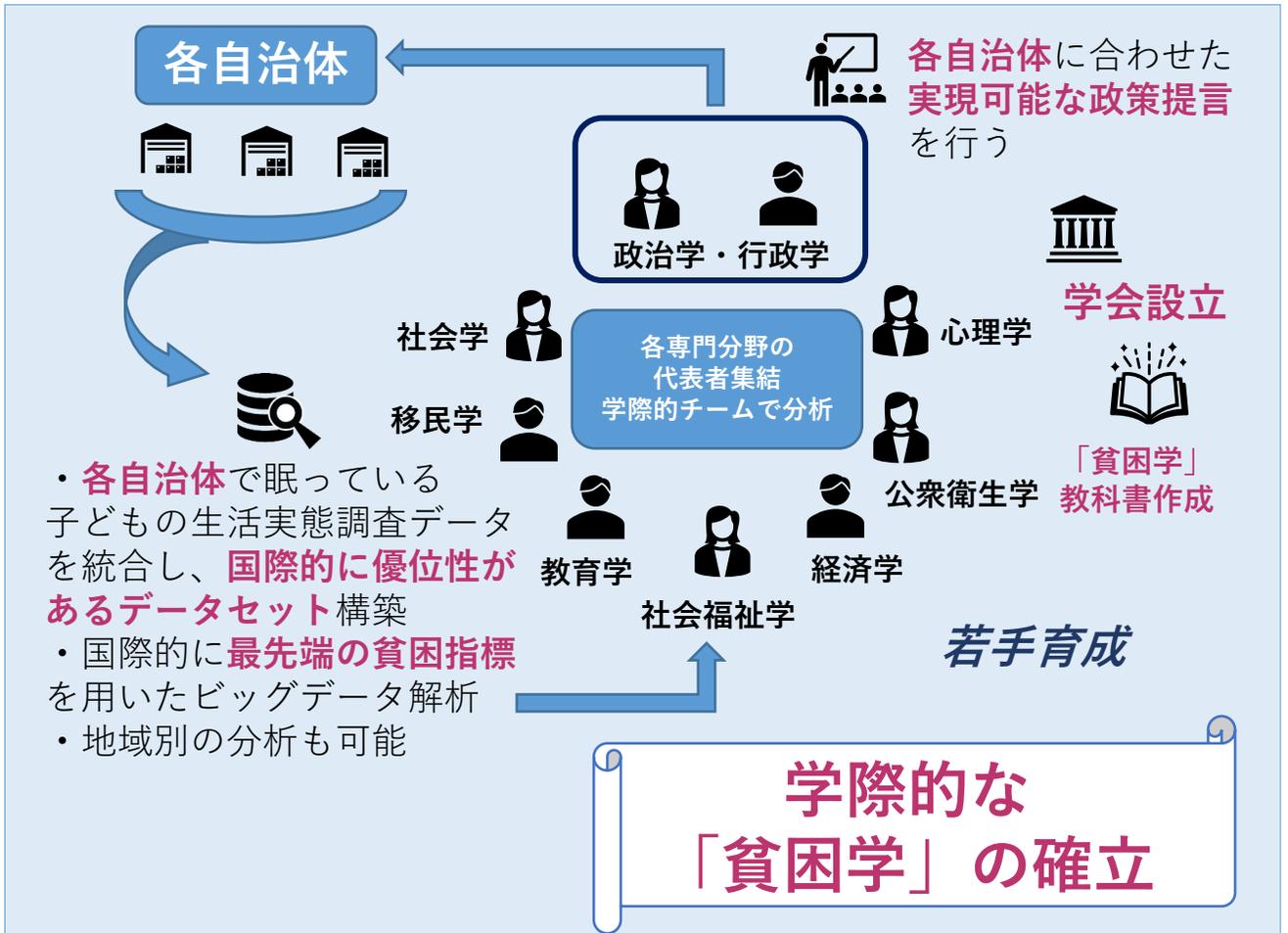


図1 研究全体のイメージ図

●貧困を一つの変数から学術領域へ確立させます

研究の背景：「貧困」は長い間「忘れられた」社会課題となり、約40年間研究が発展しない時期がありました。2008年のリーマンショック以降、貧困を分析軸とする研究がさまざまな学術分野で飛躍的に増えてきました。しかし、いまでも、貧困は一過性の「はやり」のトピックにしかすぎず、既にかげりの兆候があります。その理由は、各学術分野で育ってきた貧困に関する若手研究者が孤立していること、また、貧困の定義が曖昧であるために貧困の同定に失敗しているケースが多くあるからです。

若手人材育成を積極的に行います

自治体実施の社会調査データ

各自治体データの統合
子どもの貧困
データベース作成



● 剥奪指標を活用した国際的にも最大規模の子どもの貧困データベースを作成します

- ・ 多数の自治体が行った子どもの貧困調査を統合し、国際的にも最大規模の子どもの貧困データベースを作成。
- ・ プロジェクト独自の貧困調査を行い、上記データベースを補完。
- ・ 最先端の剥奪指標の日本版を開発

● 研究費の約6割は若手の人材育成に使用します

- ・ 計30件の公募研究
- ・ シニア研究者から若手研究者に対して研究援助を伴う研究費支援
- ・ 高額設備は必要ないので設備費は最小限に限定
- ・ 若手研究者の雇用
- ・ 積極的な国際交流と海外で勝負できる若手の育成のための旅費
- ・ 国際学会など海外発信のための旅費を提供し、経験を深める

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

● 実証研究からの分析を通して、実装可能な政策提言を行います。

最先端の貧困指標を用いて、貧困とアウトカムの関連のメカニズムを確認し、他の要素（地域差要因、ジェンダー、外国ルーツ、健康問題）がどのように交わって子どもに影響を与えているかを解明します。

剥奪指標を活用した最先端の貧困指標

地域

ジェンダー

外国ルーツ

健康問題

学術的成果
社会への影響

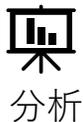
学術コミュニティ



- ・ 研究者養成課程における「貧困学」確立⇒教科書
- ・ 学会を超えたコミュニティ⇒新しい学会や共同体の母体
- ・ 継続的な「総合・新領域系／複合新領域」としての貧困学の設立



「貧困学」教科書



分析

自治体

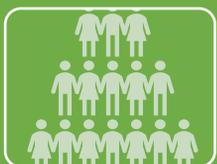


- ・ データ提供自治体には各自治体に合わせた分析→政策提言
- ・ 自治体職員向けの研修／研修資料（onlineなど）



研修

国・世論・一般市民・NPO・活動団体



- ・ 国に向けた政策提言
- ・ 一般市民／NPO／活動団体向けの啓もう資料・統計

